
テストは一週間後

未知

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テストは一週間後

【Nコード】

N4335Z

【作者名】

未知

【あらすじ】

「一週間後に国語・算数・理科・社会、4つのテストがあります」

担任の小林先生から言われた一言。

そこから始まっていく・・・

少年探偵団中心のstoryで、テストや勉強の話。

コメディーです。

一週間の有余（前書き）

今回はセリフの前に誰が言っているのか解るようにしました。

一週間の有余

く 帝丹小学校1年B組

小「一週間後に国語・算数・理科・社会、4つのテストがあります。」

ク「「ええ」」」！！！！」

このクラスの担任である小林先生の一言で子供たちは一気に騒ぎ出す。

元「マジかよ・・・？」

光「正直、めんどくさいですね・・・」

歩「やだなあ」

勿論それは、元太・光彦・歩美・・・

少年探偵団も例外ではなかった。

コ「テストね」

哀「あら、随分と自信満々なこと」

コ「おい・・・オメーなあ・・・」

哀「ふふ・・・100点とれなくても知らないわよ」

コ「・・・そのセリフ、そっくりそのまま返してやるよ」

哀「あら・・・私に喧嘩を売ってるのかしら？」

コ「さあな？・・・ってかオメーもだろ？」

哀「私は一応大学も卒業してるのよ？間違うはずないでしょ」

コ「・・・上等だな。俺もこれでも高校生やってたんだぜ？」

哀「・・・過去形なのね・・・」

コ「うるせえ!」

皆が不満を言い合う中、コナンと哀は静かに会話していた。

偽小学生二人は自信満々であり、余裕の笑みを浮かべているのであった。

小「あと、今回は順位も付きますからね?皆頑張りましょう!」

・・・決定は決定

いくら言ってもテストがあるのは変わらないのである。

・・・そう小林先生の瞳が言っているように感じる。

その瞳に気がついたのはコナンと哀だけだった・・・

元「はーあ・・・テストかあ・・・」

光「頑張るしかありませんね」

歩「この一週間は勉強ね！」

学校が終わった帰り道、テストに嘆く元太と、気合を入れている光彦・何かを決心したような歩美の姿があった。

コナンと哀と別れた三人は、テストのことばかり考えていた。

歩「少年探偵団は頭良いと思わせないとね！」

光「そうですね！」

元「マジでやんのかよ？」

歩光「マジだよ（です）！！」「」

彦・・・それから一週間、探偵団をやらなくて必死に勉強する歩美と光

あくまでのんびりと授業中に寝たり本を読んだりしているコナン

小学一年生が見る本ではない、英語で書かれた本を読む哀

いつもと変わらない元太・・・の姿が見られた・・・

テスト当日　ゝ算数・社会ゝ（前書き）

今回はテスト当日！！

算数と社会編です。

テスト当日　　ゝ算数・社会ゝ

帝丹小学校一学年の児童たちは黙々とテストに取り組んでいた。

ゝ1時間目・算数ゝ

コ（うわゝ何だこれ・・・小二の問題も交じってやがる・・・何考えてんだ？ここの教師たちは・・・まあ簡単だけだなゝ）

哀（あら？これ小二で習うものじゃなかったかしら？まあ簡単だわ）

歩（あれ・・・？これ習ってないよね？でも確か・・・こうすれば良かったのかな？）

光（これ・・・習っていませんよね？でも一応やっておきましたから解けます！）

元（まったく解んねーぜ！）

45分間のテストをものの8分で終わらせたコナンと哀。

二人に比べれば時間はかかってしまったが、30分後に光彦・その1分後に歩美が終わらせた。

算数は小二で習う単元もあり、その他の者は悩んでいた。

元太もその一人・・・

コ(うんうん・・・簡単な)

く2時間目・社会く

哀（・・・簡単ね）

ものの10分で終わらせたコナンと哀。

コナンはそのまま夢の中へ・・・

小「・・・」（は、は、ち・・・）

そんなコナンに何も言えない担任・小林先生・・・

歩（よし！できた！！）

30分後に歩美が終わらせ・・・

光（社会は苦手なんですよね・・・）

歩美から5分遅れの35分で光彦もクリア。

四人は終わったと思っているが、もちろん、社会にも小二レベルの問題があった・・・

テスト当日　↳理科・国語↳

↳3時間目・理科↳

算数・社会が終わり、小二レベルの問題があることに気がついたのは、

全クラス中、コナン・哀・歩美・光彦の四名だけだった。

歩光（「たぶん、次の理科も小二レベルの問題があるはず」です）
・・（）

小「初めて」

カサッ

一斉に問題に取り組む児童たち。

しかし・・・少したった頃・・・

鉛筆の持つ手が止まっていく者が続出。

その理由は、出された一つの問題。

これには流石にコナン・哀・歩美・光彦も一度手を止めた。

哀（こ、これ・・・小学三年生・・・しかも応用よ！？こんなの、
小学一年生の彼らには無理よー！！）

驚きを隠せない哀。

問題も難しさに驚いているのではない。

小学一年生の彼らにこの問題を出題する教師たちに、である。
小学三年生レベル

コ（おいおい・・・こりゃねーだろ。ほんとに何考えてんだ？教師
あい
たち・・・）

コナンもこればかりは教師を疑う・・・が、普通に問題を解く二人は余裕の表情であった。

コ（こりゃー次の国語も小三レベル出てくんじゃねーか？）

哀（国語も楽しみだわ）

10分で終わらせる。

その表情は、一番笑顔であった。

その一方で、残りの少年探偵団は三名は・・・？

歩（な、何これ。小二レベルならまだ解けるけど・・・それより上なんてムリだよ！！）

光（これ・・・小三レベルですか・・・？小二までなら何とかかなりますけど・・・流石にムリです！！）

歩美と光彦は小二より上、つまり小三レベルであることには気

がついたものの、そこまではやっていなかった。

理科のテスト終了後・・・

光「歩美ちゃん。5の問題解りましたか？」

歩「うん。4の小二問題ならあんとか解けたけど・・・5はさっぱり・・・」

～ 4 時間目・国語 ～

コ哀（は・・・？）（

歩光（（えっ！？）（

国語はちゃっかり小三の漢字が出題されていて、コナンと哀は驚き、歩美と光彦は呆然・他の者は習っていない漢字に焦っていた。

漢字の後にも難問（小一にとって）の文章読解問題が出題されていたりと悪戦苦闘。

コ（おいおい・・・）

哀（何してるのかしら？小林先生・・・）

歩（・・・難しいよ～～～！！）

光（・・・難しいですね。・・・でも・・・）

コナン・哀は難問（小一にとって）もサラッと解いてしまい10分で終わらせた。

歩美はもともと国語は苦手なため、空欄がちらほらと・・・

光彦は両親が教師であり、言葉遣いや漢字などは厳しく鍛えられたため少し苦労したがすべての問題が埋まっていた。

元太は2割ほどしか埋まっていなかった・・・

その後、この日は給食を食べ下校となった。

今日は金曜日。

つまり明日は土曜日で休みである。

小学生・・・

しかも一年生とくれば・・・

遊ぶのが基本だろう。

それからサッカーをして、コナンたちが各自の家へと帰ったのは六時過ぎであった・・・

テスト返却日（前書き）

今回は短めです。

テスト返却日

〃月曜日〃

今日は待ちに待った（一部待ってない者もいるが）テスト返却日である。

1年B組のクラスメートもワクワクしているのがよく判る。

小「じゃあ今からテスト結果を返します。名前を呼ばれたら返事してね？」

ク「ク」はーい!!」「」

「哀」「……………」

皆が元気よく返事をしている中、無反応な者が若干二名。

言わずもがな、コナンと哀の偽小学生コンビである。

既にコナンは夢の中へと旅立っていた。

哀「江戸川君起きなさい」

コ「ふぁ？・・・あぁ、どうかしたのか？灰原・・・」

哀「これからテスト返しがあるから起こしたのよ」

コ「・・・あぁ・・・もう返ってくんのか？」

哀「ええ・・・」

小「次、江戸川君」

コ「あ、はい・・・」

コナンと哀が喋っている間にテスト返しは始まっていた。

歩「コナン君！どうだった？」

席へ戻ってきたコナンにいち早くきいた歩美。

コ「ん？ああ、まだ見てねーよ」

歩「じゃあ、まだ見ないでね！皆も！！」

コ光「へ．．．？」

哀「なぜかしら？」

歩「皆で一斉に見た方が面白いじゃん！！」

コ哀光「．．．ああ．．．なるほど．．．」「」「」

小「小嶋君」

元「はい!」

次々と名が呼ばれていく・・・

小「円谷君」

光「はい!」

小「吉田さん」

哀「はい」

小「灰原さん」

歩「はい！」

小「じゃあ1時間目の準備をしましょう！」

小林先生はクラスメート全員に紙を配ると、そう言い教室を後にした。

テスト返却日（後書き）

たぶん、次でラストだと思います。

結果

小林先生が去った1 - B教室内では、結果を見て喜ぶ者・見せ合う者たち・残念がつている者の姿が見られた。

コナンたち、少年探偵団は2つ目にあたる。

丁度今、五人がコナンの机に集まっている。（元々五人の席は近い）

各自の結果を見せ合うため。

そして五人自身も自分が何位なのか、何点取れているのか判らない。

歩「じゃあ一斉にいくよ？せーのー!!」

バッ

一斉に机の上に置かれた五枚の紙。

その結果は・・・？

元太 国語 21・算数 26・理科 32・社会 39 2
40人中201位

歩美 国語 97・算数 100・理科 95・社会 100
240人中4位

光彦 国語 100・算数 100・理科 95・社会 10
240人中3位

コナン 国語 100・算数 100・理科 100・社会 10
240人中1位

哀 国語 100・算数 100・理科 100・社会 10
240人中1位

歩光「「！」」

元「マジかよ・・・」

光「さすがですね・・・コナン君・灰原さん」

コ「光彦もすごいじゃないか」

歩「やったあー！勉強してよかったよ」

哀「そういえば、一週間・・・」

歩「うん！一週間は勉強してたよ！！」

光「そういえば、小二レベルの問題ありましたよね？」

コ「ああ、小三のやつもあったぜ」

歩「そういえば！あれって何の為だったのかな？」

元「そんなのあったか？」

光「ありましたよ！！」

哀「そうね。テストなら一年生の問題だけでいい筈だわ」

コ「俺も疑問に思ってた……。小二・小三レベルなんて普通解けねーだろ？」

哀「あら、江戸川君は解けてるじゃない」

コ「バ一口。それを言うならオメーも歩美ちゃんも光彦もだろ？」

結局、何のために小二・小三レベルの問題があつたのか分からぬまま、一時間目の始まり時間となった。

始まった一時間目。

コナン・哀にとっては退屈すぎる内容。

光彦と歩美もすべて分かっているため、退屈な表情である。

しかし、この授業でテストのやった意味が分かったとは・・・

・ しかもその内容が後にコナン・哀・歩美・光彦にまわってくるとは・

まだ知らない。

授業も終わりに近づき、残り5分。

コ歩哀光（）（）（何か嫌な予感がする）わ（）（します）・・・（）（）（）

小「クイズ大会は4人1組で行われます。よって、あのテストの上位4名の方が代表として出場することになります」

コ哀歩光「」「」「！！！？」「」「」

コ（なにいゝゝ！！！！）

哀……

歩（ウソ！？）

光（！？）

コ歩光（（（ってことは・・・）））

コ（出場するのは俺と歩美・光彦・灰原・・・）

哀（私と江戸川君・吉田さん・円谷君が出場することになるのね）

歩（私とコナン君・哀ちゃん・光彦君が出場ってことかな・・・）

光（出場するのは僕と歩美ちゃん・コナン君・灰原さんの四名です

か・・・)

小「普段は4人はクラスバラバラなのですが、今年は上位四名がこのクラスに集結しています!!」

ク「ククククうそ~~~~~!!!!!!」

小「1位が江戸川君と灰原さん、3位が円谷君、4位が吉田さんです!!」

クラスメート全員が一斉に4人のほうを向いた。

コ哀歩光（（（（やっぱり・・・））））

小「では江戸川君・灰原さん・円谷君・吉田さん、よろしくね」

光「先生……」

小「何？円谷君」

光「そのクイズ大会いつ行われるんですか？」

小「えっと・・・2週間後の11月17日、水曜日に行われるわ」

光「分かりました」

コ（マジかよ・・・）

哀・・・

歩（こうなったら・・・何が何でも優勝するよ！！）

光（頑張るしかないですね・・・）

こうして、コナンたち四名の『帝丹小学校クイズ大会』の出場が決
まった・・・

E
N
D

結果（後書き）

後書き

これで完結です

『帝丹小学校クイズ大会』はまた別の話として連載していきます。

読んでくださった方、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4335z/>

テストは一週間後

2011年12月25日21時50分発行